



埼玉県のマスコット コバトン

埼玉県 獣医師会 会報

第 641 号

平成29年 3 月20日編集

発行所
公益社団法人 埼玉県獣医師会
〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-340
(埼玉県農業共済会館内)
電話 048(645) 1 9 0 6
FAX 048(648) 1 8 6 5
E-mail : s-vma@vesta.ocn.ne.jp
URL : <http://www.saitama-vma.org/>
振替口座 00110 - 9 - 195954番

発行責任者 高橋 三男

編集責任者 大橋 邦啓

印刷所 (株)アサヒコミュニケーションズ

記事の内容

公益社団法人埼玉県獣医師会

第69回定時総会の案内(予告) 1

平成28年度日本獣医師会獣医学術学会

年次大会が石川県で開催 2

会務報告

第4回狂犬病予防委員会 5

第2回班長会議 5

新聞紙上で集合狂犬病予防注射の実施を

啓発 6

第4回総務委員会 6

ひろば

さいたま市支部学術講習会開催報告 7

西支部学術講習会開催報告 7

東支部研修旅行開催報告 8

第137回埼玉県獣医師会ゴルフ同好会

コンペ結果報告 8

切り抜きニュース

○犬のストレス 手軽に簡単

ーリュック型で心拍測定可能ー 9

○来日時持参の生肉 鳥インフルを検出

ー中国から 検疫に限界もー 9

○乳児が犠牲に

ー飼い犬の咬みつき防ぐにはー 10

埼玉県獣医師会学術広報版 11

事務局より

事務局メモ 13

編集後記 14

公益社団法人 埼玉県獣医師会 会員憲章

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は、それぞれの職域において、その責務を遂行し、県民の福祉増進に寄与するため、ここに会員憲章を定めます。

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は

1. 動物の生命を守り、ひとびとの生活を豊かにしよう
1. 獣医学術を研鑽向上し、確信を持って業務に邁進しよう
1. 動物愛護思想を向上し、心豊かな生活をしよう
1. 環境衛生を向上し、福祉増進の実をあげよう
1. 職域を尊重し、倫理の昂揚をはかろう

(予告)

公益社団法人埼玉県獣医師会 第69回定時総会及び懇親会等のご案内

日 時 平成29年 6 月 7 日 (水)

場 所 大宮ラフォーレ清水園 3階
さいたま市大宮区東町2-204
電話 048-643-1234

受 付 午後1時から

内 容 午後1時20分～ 埼玉県獣医師政治連盟総会
午後2時～ 埼玉県獣医師会総会

(主な議案)

- ① 平成29年度事業計画・収支予算に関する件
- ② 平成28年度事業報告・収支決算の承認に関する件
- ③ 役員の改選に関する件

午後5時～ 懇親会(会費 5,000円)

※着席にて開催

(主な来賓：敬称 略)

埼玉県知事、埼玉県議会議長、埼玉県議会議員

さいたま市長、さいたま市議会議長、さいたま市議会議員

衆・参国會議員、日本獣医師会会長及び関係団体の長 等

約250名

総会議案等、詳細な内容につきましては、次号(第642号 平成29年4月20日編集)でお知らせしますが、
会員各位におかれましては、事前に日程等調整の上、多数の出席をお願いします。

(出欠席報告ハガキは、次号に同封します。)

平成28年度日本獣医師会獣医学術学会 年次大会が石川県で開催

日本獣医師会主催の平成28年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会が、石川県金沢市内で次のとおり開催されました。

日 時 平成29年2月24日(金)から26日(日)までの3日間
会 場 金沢駅周辺の諸施設(石川県立音楽堂、金沢市アートホール、ホテル金沢、ホテル日航金沢)
参加登録者 2,000名

1 主なプログラム

(1) 地区学会長賞受賞講演

全国9ブロックの獣医学術地区学会で地区学会長賞を受賞した研究演題が発表されました。各学会での発表演題数などは次のとおりです。

(1) 日本産業動物獣医学会

発表演題数 21題(うち関東・東京合同地区 2題)

学会長 佐藤 繁 岩手大学農学部教授

(2) 日本小動物獣医学会

発表演題数 19題(うち関東・東京合同地区 2題)

学会長 佐藤れえ子 岩手大学農学部教授

(3) 日本獣医公衆衛生学会

発表演題数 13題(うち関東・東京合同地区 1題)

学会長 丸山総一 日本大学生物資源科学部教授

《獣医学術学会賞の受賞講演》

これらの発表の中で獣医学術学会賞を受賞した講演は次のとおりです。

(1) 産業動物部門

演題名:「黒毛和種牛で発生した胎膜水腫の原因変異の特定」

受賞者:長谷川清寿(鳥根県畜産技術センター)ほか

(2) 小動物部門

演題名:「頭蓋内腫瘍性病変の犬75例における放射線治療成績と予後因子の解析」

受賞者:細谷謙次(北海道大学獣医学研究科獣医外科学教室)ほか

(3) 公衆衛生部門

演題名:「湯煮処理されたツキヨタケの簡易な理化学的推定鑑別法の検討」

受賞者:原 智之(新潟県上越地域振興局健康福祉環境部)

(2) シンポジウム

ア 「女性獣医師の就業支援」や「野生動物対策への取組み」について

イ 「動物愛護管理」や「獣医師の職業倫理」について

ウ 「インフルエンザ(日本医師会との連携)」や「マイコプラズマ」などの感染症について

エ 小動物分野

「救急疾患・関節疾患への診断と治療」や「犬と猫の尿結石の治療法」などについて

オ 公衆衛生分野

「食中毒をめぐる最近の話題」などについて

カ 産業動物分野

「アニマルウェルフェア」や「農場HACCP構築」などについて

《本会会員が発表した講演》

(ア) 日本産業動物獣医学会－シンポジウム「これからの乳房炎の新しい治療・予防戦略」では、平田圭子先生(農林支部)が「乳房炎の新たな治療薬剤への対応」について講演

(イ) 日本産業動物獣医学会－シンポジウム「牛の下痢症に関する最近の知見」では、福田昌治先生(農林支部)が「成牛のウイルス性下痢症に関する最近の知見」について講演

(3) 市民公開シンポジウム

「老齢動物と高齢者」、「熊本地震における支援活動」などについて開催されました。特に、日本獣医師会主催のシンポジウム「人々の生活を守る管理獣医師の役割」では、大橋邦啓先生(北支部)が「肉牛飼育における管理獣医師の役割－安心・安全なお肉は健康な家畜から－」について、講演しました。

(4) 教育講演など

この他、優れた研究の発表や最新の情報を題材にした記念講演や教育講演、一般口演などが行われました。



肉牛飼育における管理獣医師の役割について講演する大橋邦啓先生(北支部)

2 歓迎交流会

25日(土)の午後6時から、ホテル日航金沢を会場にして石川県獣医師会の主催による歓迎交流会が開催されました。



交流会にて

左から 諸角元二小動物獣医学会地区幹事(東支部)、小暮一雄副会長、大橋邦啓理事(北支部)、高橋三男埼玉県獣医師会会長、中村滋副会長

まず、交流会の主催である石川県獣医師会を代表して八木幸隆会長が、また、学会並びに年次大会の主催者を代表して藏内勇夫日本獣医師会会長が挨拶したあと、来賓の谷本正憲石川県知事や山野之義金沢市長等から歓迎の挨拶があり、北村直人日本獣医師会顧問の乾杯により懇親に入りました。

歓迎交流会には、全国の獣医師会会員を始め、各学会の運営委員や行政機関の方々などが参加し、和やかな雰囲気の中で交流を深めておりました。

終演にあたり、次期開催担当の大分県獣医師会の皆様が壇上に上がり、代表して麻生 哲会長が平成29年度大分大会への参加を心からお待ちしていると挨拶し、午後8時に閉会となりました。

なお、今後の年次大会の開催日程は、次のとおりです。引き続き、会員の先生方の御協力をお願いします。

平成29年度	開催地	大分県別府市(別府国際コンベンションセンター)
	期 日	平成30年 2月10日(土)～12日(月・祝)
平成30年度	開催地	神奈川県横浜市(新横浜プリンスホテル)
	期 日	平成31年 2月 8日(金)～10日(日)



八木幸隆石川県獣医師会長の歓迎挨拶



谷本正憲石川県知事の祝辞

広告

大切な愛犬、
飼い主の皆様、
社会のために

動物用医薬品 劇要指示 (狂犬病組織培養不活化ワクチン)

狂犬病TCワクチン“化血研”

製造販売 **化血研** 一般財団法人 化学及血清療法研究所

熊本市北区大塚一丁目6番1号 〒860-8568

本 所 ☎(096) 345-6505(営業直通)

東京営業所 ☎(03) 3443-0177

会務報告

第4回 狂犬病予防委員会

平成29年3月10日(金)午後1時30分から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

今年度の埼玉県獣医師会の事業は計画どおりに進んでいる。集合狂犬病予防注射に関して埼玉県の方法が全国で一番良い方法と思っている。関東地区の注射料金は全国的にみて高くなっているが、その中でも埼玉県は最も安くして予防接種を促進している。皆さんには誇りを持って、この集合狂犬病予防注射に取り組んでいただきたい。

2 協議事項

(1) 平成29年度集合狂犬病予防注射実施について

平成29年度における実施予定者、ワクチン等の関係資材の購入及び班別配布計画並びに班長提出書類等について協議し決定した。

また、事故が発生した場合には、実施者、班長、事務局、委員、支部長等がよく連携をとって、迅速・適確な対応を取ることとした。

(2) その他

近年の獣医師数や獣医師試験の結果など、獣医事を巡る情勢について意見交換するとともに、当面の課題について協議した。

第2回 班長会議

第4回狂犬病予防委員会に引き続き、平成29年3月10日(金)午後3時から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

動物病院を取り巻く課題として獣医科大学の新設やアウトサイダーによる狂犬病予防注射などがある。これからの時代は動物病院の対象動物が増えにくくなるため、これまで以上に獣医師会組織による活動を行っていく必要がある。新年度の集合狂犬病予防注射も皆さんの総意で実施してまいりたい。

2 協議事項

(1) 平成29年度集合狂犬病予防注射実施について

平成29年度の実施予定者、ワクチン等関係資材の購入及び班別配布計画並びに班長提出書類等について説明し、円滑な実施を徹底した。

また、事故が発生した場合には、関係者との連携や事故報告の提出などについて、迅速・適確な対応を要請した。

(2) その他

近年の獣医師数や獣医師の試験結果等について報告され、当面の課題について意見交換した。

紙上新聞で集合狂犬病予防注射の実施を啓発

4月からの集合狂犬病予防注射の実施を控え、新聞紙上に県民向けの啓発記事を掲載しました。



年1回の狂犬病予防注射は飼い主ひとりひとりの責任 集合狂犬病予防注射の季節です。

狂犬病は発症すると有効な治療法はなく、ほぼ100%死亡する人と動物の共通感染症で、アジア・アフリカ等海外では毎年5万5千人以上が犠牲になっています！
人への感染防止には犬への狂犬病予防注射が最も有効です。
お住まいの市町村が実施する集合狂犬病予防注射会場
又はお近くの動物病院で必ず予防注射を受けましょう。


埼玉県

市町村

受託団体(実施主体)
 公益社団法人 **埼玉県獣医師会**
 会長 高橋 三男

掲載日 3月18日(土)埼玉新聞(社会面)

第4回 総務委員会

平成29年3月14日(火)午後1時30分から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

埼玉県獣医師会は役員や総務委員の皆様方が各支部をよくまとめて頂いているので、事業の全てが順調に進捗している。また、県当局からも温かいご支援を頂いており感謝申し上げる。本日は、この1年間の事業収支決算と来年度の事業計画、収支予算(案)についてご協議をいただくので、よろしくお願いいたします。

2 協議事項

(1) 平成28年度事業収支決算見込みについて

現時点における収支決算の見込みについて報告し承認された。

(2) 平成29年度事業計画及び収支予算(案)について

新年度予算における事業計画や事業内容などについて協議した。

(3) 特定費用準備資金等取扱規程の制度について

特定活動のために支出する費用に充てるための資金として、役員退任慰労金と職員の退職給付金があるが、これを他の資金と区分して管理する必要があることから規程案を作成し協議した。

(4) 会員規程の一部改正について

これまでの入会様式では誤記等が見受けられたので、あらかじめ獣医事調査委員会の意見を聞いて改正案を作成し協議した。

(5) その他

獣医師を取り巻く情勢について協議し、今後の対応について意見交換した。

ひろば

さいたま市支部学術講習会開催報告

さいたま市支部学術委員 土谷 寛

3月5日(日)大宮ソニックシティにて、さいたま市支部学術講習会を開催いたしました。

荒田明香先生をお招きし、災害に伴う問題行動とその予防というタイトルでご講演いただきました。

ペットの救護対策ガイドラインとして、飼い主としての備えや同行避難についてご講演いただきました。また災害時のストレス軽減のための日常のしつけや飼育環境について具体的にご講演いただき、備えの重要性を大変実感させられた内容であったと思いました。また、獣医師として飼い主に災害に備えることを啓蒙する必要性を実感した講演でした。

<参加者内訳>

出席者	さいたま市支部	南第一支部	南第二支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
16名	10名	1名	1名	1名	0名	1名	2名	0名

西支部学術講習会開催報告

西支部学術委員 佐藤 博司

3月12日(日)川越南文化会館にて西支部学術講習会を開催いたしました。日本獣医生命科学大学 藤田道郎先生をお招きし、『下部呼吸器疾患の診断と治療～透視X線や気管支鏡を用いた疾患の内側の観察と薬の意外な効能について～』という演題でご講演いただきました。

透視X線による気管虚脱の診断やマクロライド系抗生物質の効能など、開業獣医師にとって明日からの診療に生かせる大変価値ある講習でした。質問に関しても大変丁寧にお答えいただきました。講師の藤田先生と参加してくださった先生方に心より感謝申し上げます。

<参加者内訳>

出席者	さいたま市支部	南第一支部	南第二支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
53名	2名	3名	1名	33名	1名	5名	6名	2名

東支部研修旅行開催報告

東支部支部長 八木 賢裕

平成29年3月5日から3月6日にかけて、栃木県鬼怒川あさやホテルにて東支部研修旅行を開催しました。総勢34名の参加で、午後4時より日本獣医生命科学大学教授 竹村直行先生をお迎えし、懇親会の前に僧帽弁閉鎖不全症について基礎の基礎からじっくりと教えていただきました。

たっぷりとお勉強をした後、午後7時半より埼玉県獣医師会 高橋三男会長をお迎えし懇親会を開催しました。

高橋会長の来賓挨拶をいただき、八木支部長の挨拶、渋谷副支部長に乾杯の音頭をとっていただき、宴会がスタートしました。あさやホテルの美味しい料理に舌鼓を打ちながら、お酒を酌み交わし、普段はなかなかゆっくりとお話することのできない支部員の先生方ともゆっくりとお話ができ、また来賓の先生方ともさしで向いお酒を酌み交わし、共に楽しい時間を共有することができました。宴会の最後の締めは中村滋 埼玉県獣医師会副会長の応援エールをもってお開きとなりました。

東支部の団結力の再確認が出来、大変有意義な時間を支部の先生方と共有でき、翌日からの仕事に鋭気を養えた素晴らしい研修旅行でした。



第137回埼玉県獣医師会ゴルフ同好会コンペ結果報告

埼玉県獣医師会ゴルフ同好会会長 長谷川 繁雄

幹事 北支部 清水 章

幹事 東支部 森田 良

平成29年3月9日(木)、こだまゴルフクラブにおいて、第137回埼玉県獣医師会ゴルフ同好会コンペが19名の参加者で開催されました。

天候にも恵まれ、梅や早咲きの桜が咲き、春の訪れを感じながら素晴らしいコンディションでラウンド出来ました。

成績は以下の通りで、吉田初雄さんがベストグロスで優勝しました。

	選手名	グロス	ネット
優 勝	吉田 初雄 先生(北支部)	84	67
準優勝	岡田 憲次 先生(西支部)	88	74
第3位	山田 和男 先生(北支部)	89	75



左から
山田和男先生(第3位)
吉田初雄先生(優勝)
岡田憲次先生(準優勝)
長谷川繁雄先生(同好会会長)

切り抜きニュース

犬のストレス 手軽に簡単 —リュック型で「心拍測定」可能—

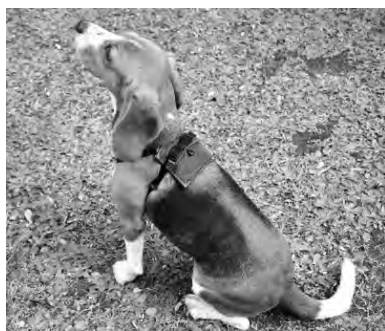
大阪府立大の島村俊介准教授(獣医学)らの研究グループは18日、心拍を測定することでリアルタイムに犬のストレス状態を調べる手法を開発したと発表した。現在普及している血液検査などの方法に比べて手間がかからず、島村准教授は「表に出にくいペットの病気やけがを家庭で手軽に察知できるようになる」と話している。

動物にはストレス時に活発になる交感神経と、リラックス時に働く副交感神経があり、どちらが強く働くかによって心拍のテンポなどに変化が生じる。

犬の心拍は、ストレスが高まると間隔が一定になる特徴がある。グループは、犬の心拍の間隔を計測できるリュック型のセンサーを開発。犬に装着して心拍の変化を観察し、緊張が高まったときに心拍の間隔が一定になっていく様子を把握することに成功した。

これまで犬のストレス状態を知るには、専門病院で血液や唾液などの検査を受ける必要があり、結果が出るまでに数日かかった。島村准教授は「センサーを商品化し、家庭でリアルタイムに犬の状態を調べられるようにしたい」と述べた。

毎日新聞 2月18日(土)



リュック型のセンサーを取り付けた犬。心拍の間隔を調べることで、ストレス状態を観察できる。島村俊介准教授提供

来日時持参の生肉 鳥インフルを検出 —中国から 検疫に限界も—

中国からの渡航者が日本に持ち込もうとして没収された鳥肉から、高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されていたことが農林水産省動物検疫所などへの取材でわかった。人に感染する可能性は低いが、野鳥などを介してニワトリなどの家

禽に感染する恐れがある。検疫で没収される畜産物は全体の一部とみられ、専門家は対策強化の必要性を訴える。

調査は世界的に鳥インフルの流行が近年続いていることから、動物検疫所と北海道大学が共同で初めて実施。2015年6月～今年2月に羽田空港など全国9カ所の空港や港で渡航者の荷物から没収されたニワトリやアヒルの肉や卵など228検体を調べた。その結果、中国の上海、アモイ、香港から成田、中部の各空港に持ち込まれたニワトリとアヒルの生肉3点から、高病原性鳥インフルエンザのH5N1亜型とH5N6亜型のウイルスが見つかった。

海外からの肉類の持ち込みは家畜伝染病予防法に基づき、検査証明書がない限り認められていないが、日本で生活する人が帰省した際に本国から持ち帰ったり、土産で持ち込まれたりすることがあるという。

大槻公一・京都産業大学鳥インフルエンザ研究センター長によると、国内で流行する鳥インフルエンザは渡り鳥によって運ばれると考えられており、「携行品で持ち込まれる可能性は想定されていない」と指摘。持ち込まれた肉が屋外に捨てられ、野鳥が触れたり、生肉に触れた人が農場や動物園に行ったりして感染が広がる恐れがあるという。

一方、検疫所で没収された畜産物は、中国を中心に15年は約6万2700件(約83トン)に上り、11年と比べほぼ倍増した。調査にあたった北大の迫田義博教授(ウイルス学)は「すべてを検疫で見つけるのは難しく、今回見つかったのは氷山の一角とみられる」と言う。

追いつかぬ 肉の検疫

中国からの渡航者が持ち込もうとした肉から高病原性鳥インフルエンザウイルスが見つかった。空港などの検疫の現場では、犬を使った水際対策などが取られているが、没収できるのはごく一部とみられる。

3月上旬、羽田空港国際線ターミナルの入国検査場。上海と北京からの便が到着すると、動物検疫所羽田空港支所の本田省吾・家畜防疫官(33)が、検疫探知犬を連れて回った。犬が渡航客の荷物をかき分けながら進むと、若い男女の荷物を載せたカートの前で止まり、静かに座った。「発見」の合図だ。

別の防疫官が窓口まで案内し、四つのトランクを開けると、ソーセージや豚肉などが出てきた。法律で許可のない輸入は禁じられており、その場で没収。同支所の角田隆則次長は「トランク一つ分持ち込もうとして没収される人もいる」という。

税関の検査で持ち込みがわかった肉類もあった。ただ、犬がチェックできるのは一部で、中身のわからないまま通過する荷物が後を絶たない。

すべての便に対応するのは難しく、探知犬を使うのは鳥インフルが報告される中国などリスクの高い国からの便が中心。禁輸品が見つかるのも中国からの便が最も多いという。日本で生活している人が帰郷した時に本国から持ち帰ったり、日本にいる家族や友人に土産で持ってきたりするケースのほか業者が食材として大量に運び込もうとすることもある。旅行客の荷物から見つかることもあるという。

2012年に約840万人だった訪日外国人数は、16年に約2400万人に。それに伴い、訪日客の携行品から見つかる輸入が禁止された畜産物の件数も急増している。角田次長は「流入を100%食い止めたいが難しい。様々な対策を講じてリスクを下げていくしかない」と話す。

(小川裕介、香取啓介)
朝日新聞 3月13日(月)

乳児が犠牲に…

一飼い犬のかみつき防ぐにはー

飼い犬のゴールデンレトリバーに、生後10カ月の女児がかまれて亡くなるという痛ましい事故があった。家族同様に慣れ親しんだおとなしい犬でも、人をかむことがあるのか。どうすれば防げるのか。

おとなしいはずが

今月9日夕、東京都八王子市の住宅街にある民家から、「女の子が犬にかまれた」と119番通報があった。女児を預かっていた祖父母の家で、ゴールデンレトリバー(4歳オス、体重約37キロ)が女児の頭をかんだ。警察によると、祖父母と女児が床で遊んでいたところ、犬が突然かみついた。室内にケージはあったが、普段から放し飼いだった。女児は何度も祖父母宅に来ており、この犬と初めて接したわけではなかったという。

「ほえたりかんだりせず、臆病でおとなしい犬」。生後3カ月から飼っていた祖父母は警察にこう説明した。近所の人も「しっかりしつけられ、トラブルはなかった」と口をそろえる。

国内で血統証明書を発行する一般社団法人「ジャパンケネルクラブ」(東京)によると、ゴールデンレトリバーは英国原産。温和な性格とされ、古くは狩りで撃ち落とす鳥類をくわえて運ぶ「鳥獵犬」だった。利口で人と行動することを好

むため、警察犬や介助犬、災害救助犬として活躍することが多い。

口元覆う「口輪」も

ではなぜ、いきなり女児をかんだのか。犬の問題行動やしつけについて出張指導する「Doggy Labo(ドギー・ラボ)」(東京)代表の中西典子さんによると、犬がかみつくのは、怖い時、不快感がある時、何かを制止したい時が主だという。女児は最近、ハイハイを始めたばかりだった。「ゴールデンレトリバーが赤ちゃんをかんだというのはほとんど聞いたことがないが、人が何とも思わない行動でも犬がどう受けとめるのか、わからない。予期せぬこともあると理解し、乳児と一緒にのときは目を離さないようにしてほしい」

東京大学大学院獣医動物行動学研究室の武内ゆかり准教授(動物行動学)は別の理由を示唆する。

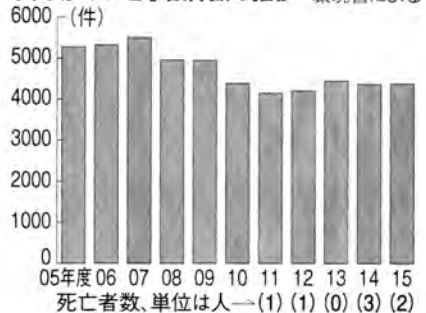
「赤ん坊のミルクの匂いを食べ物と勘違いした可能性が考えられる。小さな体は獲物と認識しやすく、しつけられていても犬の本能が働くことがある」。小型犬であっても、室内で赤ちゃんとのみにするのは危険だと指摘する。

室内で放し飼いの犬は多いが、小さな子どもがいる場合、武内さんは口元を覆う「バスケットマズル」という犬用の口輪を薦める。口輪には、ほえないよう強く固定するものもあるが、バスケットマズルは籠状で、比較的空間が確保されている。「見た目がかわいそうという飼い主もいますが、犬にストレスはありません。ほえることもでき、慣れれば首輪と同じです」と話す。

小型犬でもリスク

環境省によると、犬のかみつき事故は全国で4373件発生(2015年度)。野犬による被害が減る一方で、飼い犬による事故が95%以上を占める。被害者の状況別では「通行中」が最多で、「配達、訪問などの際」が続くという。同省動物愛護管理室は「どんな種類の大型犬でも小型犬でも、かみつきのリスクはある。『うちの犬は大丈夫』と過信しないでほしい」と呼びかけている。

犬のかみつき事故件数の推移 環境省による



(国吉美香)

朝日新聞 3月14日(火)

平成28年度埼玉県獣医師会学術広報版

(平成29年3月20日現在)

年 月 日	産 業 動 物	小 動 物	公 衆 衛 生
平成28年4月			
5月			
6月5日(日)		北支部 「動物の呼吸器疾患の診断と治療」 日本大学 山谷 吉樹 先生 (深谷市 深谷市男女共同参画推進センター)	
6月17日(金) ～19日(日)	第92回日本獣医麻酔外科学会／第104回日本獣医循環器学会／第59回日本獣医画像診断学会 2016春季合同学会 (さいたま市 大宮ソニックシティ)		
7月18日(月・祝)		東支部 「皮膚をアップデートする！ 世界獣医皮膚科会議をふまえて」 犬と猫の皮膚科 村山 信雄 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
7月24日(日)		南第一支部・南第二支部 「難治性の下痢・嘔吐の診断・治療・予後(2)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川口市 川口総合文化センター)	
8月			
9月4日(日)		東支部 「日常の診療に役立つ!!運動器疾患に対する 最新の情報を知っておこう～猫の整形外科 疾患・超音波検査を中心とした新たな画像 診断手法～」 日本大学生物資源科学部 枝村 一弥 先生 (久喜市 久喜総合文化会館)	
9月11日(日)	平成28年度 関東・東京合同地区獣医師大会 (川崎) 獣医学術関東・東京合同地区学会 (神奈川県川崎市 ホテルKSP)		
10月2日(日)		南第一支部・南第二支部 「猫の腎臓病」 日本獣医生命科学大学 宮川 優一 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	
10月12日(水)	北支部 「開発者から伝えたい、明日からの 診療に役立つ…抗菌薬情報」 鹿児島大学 松本 修治 先生 (熊谷市 熊谷家畜保健衛生所)		
10月22日(土)	北支部・しゃくなげ会・畜産技術振興会 「仔牛の飼養管理と疾病予防 対策について」 酪農学園大学 大塚 浩通 先生 (深谷市 埼玉県農林公園)		
10月30日(日)		西支部 「犬の循環器診療アップデート」 東京動物心臓病センター 岩永 孝治 先生 (川越市 川越西文化会館)	
11月27日(日)		東支部 「遭遇頻度の高い脳疾患」 日本獣医生命科学大学 長谷川 大輔 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	

年 月 日	産 業 動 物	小 動 物	公 衆 衛 生
12月4日(日)		西支部 「猫の循環器診療アップデート」 東京動物心臓病センター 岩永 孝治 先生 (川越市 川越南文化会館)	
12月11日(日)		北支部 「最新内視鏡検査の基本手技／難治性消化器疾患に遭遇したら」 日本大学 亘 敏広 先生 (熊谷市 熊谷文化創造館 さくらめいと)	
12月18日(日)		南第一支部・南第二支部 「犬の特発性てんかん・特発性脳炎の診断と治療」 東京大学 松木 直章 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	
12月22日(木)	農林支部 平成28年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会 (さいたま市 埼玉県県民健康センター)		
平成29年 1月15日(日)		西支部 「膝関節疾患へのアプローチと外科テクニック」 東京大学附属動物医療センター 本阿彌 宗紀 先生 (川越市 川越南文化会館)	
1月15日(日)		北支部 「緑内障の診断と治療」 どうぶつ眼科EyeVet 小林 一郎 先生 (深谷市 埼玉グランドホテル深谷)	
1月26日(木)			衛生支部 健康福祉研究発表会 (さいたま市 埼玉県県民健康センター)
1月29日(日)		さいたま市支部 「疾患と問題行動の関わり」 東京大学附属動物医療センター 荒田 明香 先生 (さいたま市 With You さいたま)	
2月24日(金) ～26日(日)	平成28年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (石川) (石川県立音楽堂ほか)		
2月25日(土)			衛生支部 食肉衛生技術研修会 (さいたま市 埼玉県食肉衛生検査センター)
3月5日(日)		さいたま市支部 「災害時に伴う問題行動とその予防」 東京大学附属動物医療センター 荒田 明香 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	
3月12日(日)		西支部 「下部呼吸器疾患の診断と治療」 日本獣医生命科学大学 藤田 道郎 先生 (川越市 川越南文化会館)	

事務局メモ

ホームページ会員専用ページ 入室は URL <http://www.saitama-vma.org/>

ID：SVMA（半角・大文字） パスワード：MITSUO（半角・大文字）

- | | |
|--|---|
| 2月17日～19日 第13回日本獣医内科学アカデミー学術大会（神奈川県横浜市 パシフィコ横浜） | 4月2日 平成29年度第1回関東・東京合同地区獣医師会理事会（東京都千代田区 都市センターホテル） |
| 2月19日 麻布大学教育セミナー（さいたま市 ラフレさいたま） | 6月7日 埼玉県獣医師会第69回定時総会（さいたま市 大宮ラフォーレ清水園） |
| 2月21日 平成29年度集合狂犬病予防注射関係資料売買契約会（さいたま市 埼玉県農業共済会館） | 6月16日～18日 第94回日本獣医麻酔外科学会・第106回日本獣医循環器学会・第61回日本獣医画像診断学会 2017年春季合同学会（さいたま市 大宮ソニックシティ） |
| 2月23日 畜産懇話会（熊谷市 ホテルヘリテージ） | 6月22日 第73回日本獣医師会通常総会・理事会（東京都港区 明治記念館） |
| 2月23日 埼玉県畜産会役員会（熊谷市 ホテルヘリテージ） | 7月30日 平成29年度第2回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会（東京都千代田区 都市センターホテル） |
| 2月24日～26日 平成28年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（石川）（石川県金沢市 石川県立音楽堂ほか） | 9月10日 平成29年度関東・東京合同地区獣医師大会（東京）、獣医学術関東・東京合同地区学会（東京都千代田区 都市センターホテル） |
| 3月5日 さいたま市支部学術講習会（さいたま市 大宮ソニックシティ） | |
| 3月10日 第4回狂犬病予防委員会・第2回班長会議（さいたま市 埼玉県農業共済会館） | |
| 3月11日 日本獣医皮膚科学会学術大会式典（さいたま市 パレスホテル大宮） | |
| 3月12日 西支部学術講習会（川越市 川越南文化会館） | |
| 3月14日 第4回総務委員会（さいたま市 埼玉県農業共済会館） | |
| 3月21日 第5回日本獣医師会理事会（東京都港区 日本獣医師会） | |
| 3月23日 第5回理事会、第6回理事会（さいたま市 埼玉県農業共済会館） | |
| 3月24日 平成28年度学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校卒業式（さいたま市 パレスホテル大宮） | |
| 3月28日 埼玉県オーエスキー病防疫協議会（さいたま市 さいたま共済会館） | |

編集後記

もうトラクターが動き出している。田んぼには一面に水が張られ稲が植えられ、野山は緑一色になり、花粉症の人には花粉さえなければ！の条件付きですが、今年も、うららかな春がやってきました。そして出会いと別れの季節が来ました。獣医大学の卒業生の進路に変化が表れている。公務員や企業が増え臨床に進む新卒は減った。臨床は特に企業病院や二次診療施設へ偏っているようだ。また、長い間お勤めになられて定年を迎えられた先生方には大変お疲れ様でした。まだまだ動けますよ。今までの経験を生かして社会のために第二、第三の人生を歩んで頂きたい。そして、現役の先生方には春を満喫する間もなく集合狂犬病予防注射、春のブルセラ、結核、ヨーネ病、AD、腐蛆病検査、TGE、鳥インフルエンザ対策など改めてスイッチを入れ直しましょう。

2月24日から三日間、石川県金沢市で日本獣医師会主催の獣医学術学会年次大会が開催された。今年は例年通りの3学会に加え日本医師会との連携により開催した「インフルエンザを考える」のシンポジウムを含め関連8団体との合同企画で広範囲にわたる年次大会であった。滞在日程延長や時間を割いて兼六園や金沢城跡、東茶屋街、21世紀美術館など街に繰り出して、遠くは能登半島や東尋坊など北陸地方を廻られた先生方もおられたようだった。歓迎交流会では八木石川県獣医師会会長の挨拶から県知事、市長、国会議員さん達の祝辞があり、その挨拶によると新幹線が開通して二年経ってもまだまだ客足は衰えないそうです。タクシーの運転士さんたちも「お陰さまで」と口をそろえて言っていた。お陰でホテル代や、お目当ての市場に行ってもカニや魚の価格は以前より上がっていて、景気が良いのはイイが、観光客には重荷である。

3月5日に品川のグランドプリンス新高輪で自民党の党大会が開催され、今年は埼玉県獣医師会政治連盟が自民党埼玉県連から唯一、友好団体として推薦され表彰された。参加者の数には度肝を抜かれた。当然だがマスコミで見る国会議員さんの顔が

次々と現れたが、大会後のパーティーでテーブルを共にした議員さんが、今回最も参加者が多いが、下野した時は大変だったとその時の思いをしみじみと語っていた。何事も一番でないといけないうだ。

3.11は日本人として忘れられない数字だ。いまだに2,553名の行方不明者がいるのだそうだ。3月になってからマスコミも思い出したように書き立てていた。当時小学生だった生徒たちは、中・高生だ。先生方によると3.11が近づくとPTSD症候群を発症する生徒がいるとのことで、卒業式の準備に追われている最中に起きた大震災の恐怖を思い出そうだ。時が経っても心の奥底に残った恐ろしい記憶まで消すことは出来ないのだろう。無理も無い。前を向いて外に目を向けて頑張ってもらうしかない。現地取材をしている記者たちが口を揃えて、我々に出来ることは「多くの方々が被災地を訪れて少しでも活気を戻させることが、元気になれる一番だ」と言っていた。今年も行きましょう。双葉町の方たちが元騎西高校に避難して以来、6年が経ち加須には多くの家族が住み始めた。当初は小学校などから“いじめ”問題が聞こえて来た。大自然に恵まれ、魚も野菜も果物も全てが美味しい福島と違い、海も山も無く、あるのは利根川だけで大自然というには程遠い。以前には唯一誇れた田んぼでさえも今は不耕作地が増えてしまった田舎町だが、welcomeだ！みんなが仲良く助け合って暮らしましょう。元開業獣医師で一月に無投票で再選された双葉町の井沢町長の選挙活動は、約7千人の町民全員が震災で38都道府県に散らばって避難しているのに、公職選挙法で禁じられている戸別訪問ができずに大変だったそうだ。復興は他の町に比べ1年半遅れていて町民は全国に散っている、このまま諦めたら町がなくなると奮闘中だ。震災の傷跡は町が消えるような大きい事だ。

4月から狂犬病集合注射が始まるが市町、県、集合注射実施者の皆さんが協力し合い連携していただいて無事に終了できるようお願いいたします。(不動)



日本獣医師会・獣医師会活動指針

－ 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領－獣医師の誓い－95年宣言－」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WSC）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

広告

動物 未来 みつめる ひろがる



動物用医薬品 製造販売

日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

代表取締役 高野恵一

URL : www.zenoaq.jp

広告

皮膚・被毛 腸内環境 抗酸化成分

胃腸と皮膚が気になる犬に



ドクタークレド

Dr. CREDO No.1

成犬用 総合栄養食 1kg・3kg

抗酸化成分 心臓・腎臓 活力の維持

血流と健康が気になる犬に



ドクタークレド

Dr. CREDO No.2

中・高齢犬用 総合栄養食 1kg

国産品 小分けパック 毛玉対応

下部尿路が気になる成猫に



ドクターイデア

Dr. IDEA No.1

成猫用 総合栄養食 150g×6入

M 森久保薬品株式会社

神奈川：046-221-0620 群馬：027-230-3322 東京：042-564-2381 埼玉：04-2968-0881
三郷：048-948-2112 山梨：055-224-5278 栃木：028-666-3399 茨城：029-241-3131
つくば：0296-43-1661 成田：0476-40-5811 茂原：0475-24-1613